

アフリカは破綻する

谷口裕亮（松山大学経済学部）

今世紀に入り、アフリカ経済の復活が盛んに報道されるようになった。アフリカは1990年代半ばまでの長い経済停滞からようやく抜けだし、近年は（2009年を除いて）5%前後の実質成長を続けている。だが、このアフリカ経済の急成長は果たして本物なのだろうか？多くの研究や報道は、アフリカは紛争や気候変動などの不安定要因を抱えてはいるものの、まず大丈夫だろうとの見方を示している。しかし、私は現在のこの成長を懐疑的に捉えている。日本のバブル崩壊やアジアの通貨金融危機ほど規模は大きくはないが、アフリカは今、何らかの経済危機に向かっている。世界を自由に行き来する資本は、アフリカにも流れ込んでいた。それは先進国にとっては大した規模ではないかもしれないが、元々経済規模の小さなアフリカにとっては巨大である。そしてそれが現在の急成長を演出しているのだ。しかし、それはアフリカの実体経済、ないし広い意味でのアフリカの経済発展の水準、ないし資本を受け入れることのできる容量を上回っている。

アフリカの危機が、いつ・どこから・どのような形で発生するのかについて、確かなことは何とも言えないが、危機に向かっていると考えられる兆候はすでに現れ始めている。例えば、下のグラフは東南部アフリカ13ヶ国の国際収支の推移を表したものだが、近年、経常赤字と資本黒字が大きく乖離していることがわかる。また、アメリカの“緩和マネー”の引き揚げもあり、南アフリカの通貨randは大きく減価している（昨年1年間で-21%）。

この報告では、なぜアフリカ経済が危機に向かっていると言えるのかを、これまで比較的健全な経済成長を遂げてきた東南部アフリカの15ヶ国に注目し、危機の前触れとなりそうなデータを用い、近年の主要な新興国の危機と比較しながら明らかにする。なお、東南部アフリカに注目するのは、この地域が近年のアフリカの経済成長を牽引しており、この地域のつまずきがアフリカ全体に伝播するのではないかと考えているからである。

